

インドネシア 西ジャワ州政府が日本向けマンゴー輸出を支援

[FreshPlaza 2025年10月6日](#)

インドネシアが日本へのゲドン・ギンチュ・マンゴーの輸出を支援

西ジャワ州政府は、同州の主要農産物の1つであるゲドン・ギンチュ・マンゴーの国際競争力強化を目的として、日本向けの厳格な輸出基準を満たすために生産者への支援を行っている。

ゲドン・ギンチュは西ジャワ州産の高級マンゴー品種であり、その赤みがかった黄色い果皮、芳醇な香り、甘く酸味のある風味が特徴である。チレボン、マジャレンカ、スメダン及びインドラマユの各県で生産されている。西ジャワ州食用作物・園芸局のダダン・ヒダヤット局長によると、日本のバイヤーグループとともに市場の開拓が進められている。

同局長は2025年10月3日にチレボン県を訪問した際、「西ジャワ産ゲドン・ギンチュ・マンゴーの輸出の可能性は非常に期待が持てる」と述べた。

これまでも西ジャワ州からのゲドン・ギンチュ・マンゴーの輸出実績はあったが、日本の輸入要件に確実に適合するため、州当局は現在、より体系的なアプローチを採用する方針である。主な条件の1つは、ミバエによる汚染がないことである。

ダダン氏は、「ミバエは一切存在してはならない。そのため、我々の支援はこの課題に集中しており、植物防疫官(POPT)の協力を得ている」と語った。

POPTは、果樹園の衛生、病害虫管理、及び国際的な安全基準に準拠した農薬の使用に関して生産者を支援する任務を担っている。州政府は環境に優しい病害虫防除手法の推進に取り組んでおり、適正な農薬使用量と環境面での安全性を重視している。「最も重要なことは常に環境面での持続可能性である」とダダン氏は強調した。

州政府はまた、マンゴーが輸出に適した状態となるよう、栽培から収穫後までの品質管理に関する研修を提供している。「これは、環境に優しい病害虫防除手法の普及により、ゲドン・ギンチュ・マンゴーの輸出を支援する州政府の具体的な貢献である」とダダン氏は付け加えた。

チレボン県は西ジャワ州における最大級のマンゴー産地の1つである。中央統計局(BPS)によると、同県は2024年に44万7,769.58キントル(4万4,777トン)のマンゴーを生産した。

チレボン県のイムロン知事は、同県産のゲドン・ギンチュ・マンゴーは既に中東市場に参入していると述べた。2023年4月のアラブ首長国連邦へのマンゴー輸出額は1万3,567.91米ドルであった。イムロン知事は、「ゲドン・ギンチュ及びその他の品種のチレボン県産マンゴーは、長年にわたり輸出されてきた」と語った。

イムロン知事はさらに、同州政府は生産性の向上と生産者の国際市場へのアクセスの支援を目的とした各種の事業を引き続き実施するとして、「我々は生産者を支援し、マンゴーの輸出可能性を高めることに努めている」と述べた。

出典: RRI